

私の価値観を大きく変えた出会い

ヨーロッパだけではなく、アジアで考えると中国、韓国も自國語に加えて、英語を話します。

うつかり口がすべつて、「日本人はばかなんですー」なんて言いそつになりましたが、ぐつといらえました。

私は少し恥ずかしさを感じ、「日本人は努力していないのではないか」とまで思つてしましました。

私は、「の夏、佐久市の中学生海外研修に参加し、エストニアを訪れました。

エストニアは、九州より少し大きい面積に約百三十万人が暮らす小さな国です。

エストニアは、九州より少し大きい面積に約百三十万人が暮らす小さな国です。ロシアやドイツなどの大国に囲まれ、度重なる戦争を経て一九九一年にソ連から独立しました。

独立後はーーを活用したデジタル化を進め、世界から注目される国づくりをしています。

そのエストニアのサク市と長野県佐久市は、同じ「さくし」ということから姉妹都市を結び交流しています。

私は現地で、エストニアの中学生が母国語のエストニア語に加え、「小さい」ろから英語を学び、中学ではさらに「ドイツ語かロシア語を選択して学んでいる」とを知りました。

その姿に驚くと同時に、日本の英語教育の遅れを痛感しました。

エストニアの子たちからは、「なぜ日本人は英語を話さないの?」とよく聞かれました。

「話さないのではなく、話せないんだ」と説明しても、なかなか理解してもらえません。

多言語を話すことが当たり前のヨーロッパでは、「話せない」という感覺そのものが理解できないのです。

佐久長聖中学校 三年 西澤 唯花

日本を訪れて佐久市で数日間過ごしました。

そこで気づいたことは、店員さんや善光寺の和尚さんなど、多くの日本人が、日本語が分からぬエストニア人に、英語ではなく日本語で話していました」とです。

私がエストニアに行ったとき、現地の人たちは日本人に、母国語のエストニア語ではなく、世界共通語である英語で話していましたが、日本人は、英語よりも母国語の日本語で対応していたことが多かつたのです。

「」でも、「やっぱり日本人は英語が苦手なんだ」と痛感しました。しかし、最後に彼女から「つ言われました。

最初は、なぜ日本人が英語を話さないのか不思議だったけれども、「のグローバルな世界でも、母国語の日本語を大事にしている日本人の心が素晴らしい

世界中で英語が第一言語とする波に飲み込まれていない日本は、日本語を大切にし、自我を持つている」とが分かった

よく考えたら、日本に住む人は日本語でいいんだ

だから、私はエストニアに住んでいるから、エストニア語でいいんだ」日本は遅れていて恥ずかしいと思い込んでいた私は、彼女の言葉に

ハッとしました。

私は、実は日本の文化や言葉を誇りに思つていなかつたのです。

彼女はさらに、エストニアの現状も語つてくれました。

ソ連から独立して三十年、人口の四分の一がロシア人であり、エストニアでは今もロシア語を話す人の方が多く、国民の中には

「エストニア人の国なのに、なぜロシア語やドイツ語も勉強しないといけない」と複雑な思いを抱える人もいるそうです。

歴史や言語に対して深く考え、国の未来をどう築くかを真剣に話す彼女の姿に、私は強い印象を受けました。

また、臼田中学校と野沢小学校を見学した彼女は、「日本の生徒は、常にだれかと一緒にいて、周りに合わせすぎていて、自分の意見を言うことに慣れていない」と感じたそうです。

彼女は、「自分の意見が言える環境を小さい頃から整えた方がいい、そのためには、もっと学校の先生が自分の意見を言えば、子どもたちも自分の考えを表現できるようになる」と話していました。

彼女は、自分の国のことに対する理解をしていて、社会問題に対する関心が深く、洞察に優っていました。

そして、挑戦を恐れず、未来を見つめている彼女は、若い起業家に見えました。

そういう若者が多いからこそ、エストニアの発展は目覚ましいのだと思いました。

一方で、今の日本は「ノン・プライアンスやハラスメントに過剰反応しきぎです。

あれもだめ、これもだめ、そんな安心安全第一の環境にいたら、新しい」とに挑戦する一歩を踏み出すハードルを高めてしまうと、

思つのです。

それによつて、意欲的な気持ちや可能性を潰し進化がなくなります。

「のままでは、日本はさらに停滞してしまうのではないでしょつか。

私はこの交流を通して、自分の国に良さを再発見し、同時に今の日本の課題にも気づきました。

「これからは、エストニアで出会った仲間のように、自分の意見を持ち、社会に積極的に関わる人になりたいと思います。

そして将来、日本の未来を前向きに動かしていく大人になれるよう、これからも勉学に励みたいと思いました。